

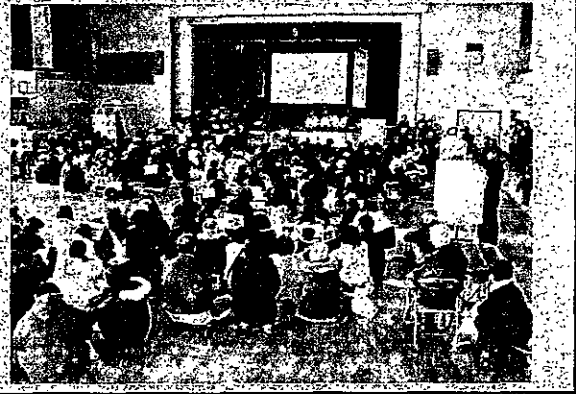
福祉避難所運営訓練における反省点や課題について

～訓練に参加した住民や専門スタッフ等の声から～

- 福祉避難所に見護師やケアマネージャー等の専門スタッフとレスキュー隊等が併進し、要援護者の状況の聞き取り等を行ったが、避難者13名でも誘導に手間取ったり、チェック漏れ等が出た。
- 福祉避難所内での人の流れが急ぐ。資器材のレイアウトに工夫が必要と感じた。
- 資器材(バンド、椅子、トイレなど)が不足することが予想される。
- 今回は、スクリーニング作業を行わなかったが、災害時には最も混乱するのではないかと。

訓練において予想以上に混乱したことから、行政主体による福祉避難所運営訓練を実施し、検証を重ねる必要がある。

避難所運営訓練の風景

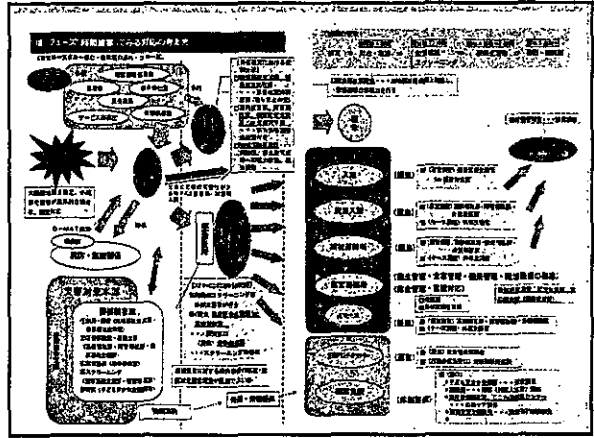


一時集合場所から要援護者の搬送

福祉避難所での受付

福祉避難所でのケア

毛布を使った寝具の調整



今後の課題について

災害時要援護者避難支援対策庁内チーム(仮称)の結成

災害時要援護者避難支援連絡会議の定期的な開催により、課題や情報の共有を図る

福祉避難所の指定、福祉事業所等との連携の確立

指定避難所の指定や安否確認等に係る協定書を締結する

要援護者への避難勧告等伝達方法の検討

大規模災害発生時等に活用する行啓リストの活用方法を検討する
避難勧告等の判断伝達マニュアルを作成し、要援護者への避難勧告等の伝達方法を確立する

要援護者情報の収集・共有にあたる個人情報保護の取扱い

個人情報保護の取扱いについての研修等を開催する(庁内外)

おわりに

「自らの身の安全は自らが守る」「自分たちの地域の安全は地域全体で守る」との自助・共助の理念のもと、災害時要援護者支援に関係する4地域団体(自治会、民生委員児童委員会、校区福祉委員会、赤十字奉仕団)が、防災について関係4団体が連携していくと合意され、全国的にも画期的な流れが広がりつつある。

災害時要援護者避難支援対策の成功の鍵は、「地域のちから」による日頃の見守り活動である。行政は、その活動がより広がり、継続して取り組んでいただけるよう活動支援策を講じなければならない。

ご静聴ありがとうございました。

V - I 災害救助等にかかる事例報告
(巨大災害から学ぶこと)

日本赤十字社

+ 日本赤十字社
Red Cross Society of Japan

Together for
humanity



人間を救うのは、人間だ。

+ 日本赤十字社
Red Cross Society of Japan

**災害救助・救援
全国担当者会議**

2009年6月1日

+
日本赤十字社
Red Cross Society of Japan

+ 日本赤十字社
Red Cross Society of Japan

ミャンマーサイクロン、中国大地震*
巨大災害から学ぶこと

日本赤十字社
粉川直樹

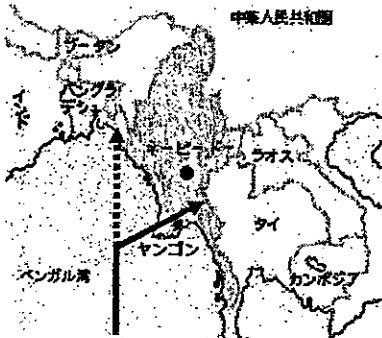
+ 日本赤十字社
Red Cross Society of Japan

大災害とは予想を遥かに超えたものである

+ 日本赤十字社
Red Cross Society of Japan

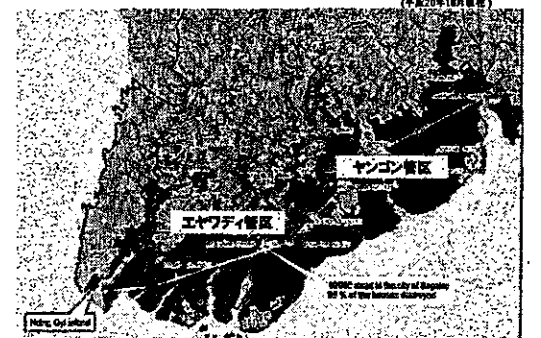
ミャンマー・サイクロン「ナルギス」

発生：2008年5月2日夜
～3日未明
規模：カテゴリー4

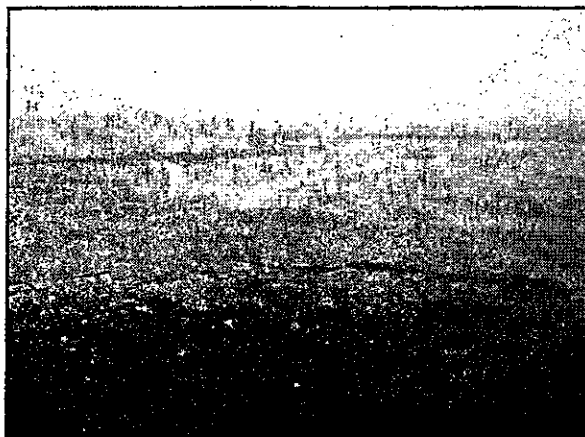



+ 日本赤十字社
Red Cross Society of Japan

被災地：エヤワディ管区、ヤンゴン管区
被災者数：約240万人 <死亡> 約8万4,500人 <行方不明> 約5万3,800人
(7月20日18時現在)



UNEP report on the impact of Nargis
90% of the houses destroyed



 日本赤十字社
NIPPON KOKU KAI JI SHI

すべての災害において、
最初に救援にあたるのは地元のボランティアである



+ 日本赤十字社
NIPPON RED CROSS SOCIETY

海外からの救助隊・救援の受け入れ

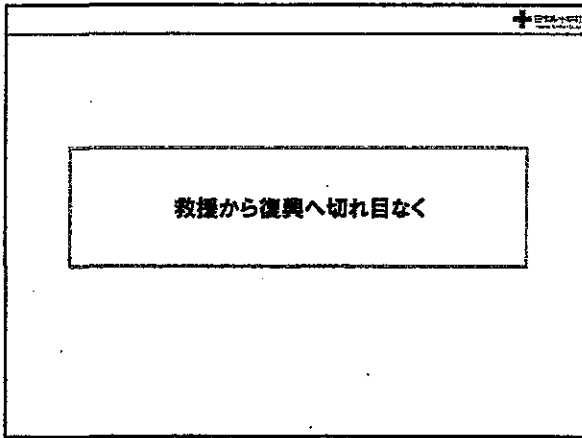
- ・レスキュー
- ・医療
- ・給水・衛生
- ・シェルター
- ・心のケア



+ 日本赤十字社
NIPPON RED CROSS SOCIETY

緊急救援物資を
カシオのチャーター機で
170回輸送（2009年）





復興支援事業
 期間： 2008年 - 2011年 (3年間)
 対象地： エヤワテイ管区 13市
 対象者： 10万世帯 (約50万人)

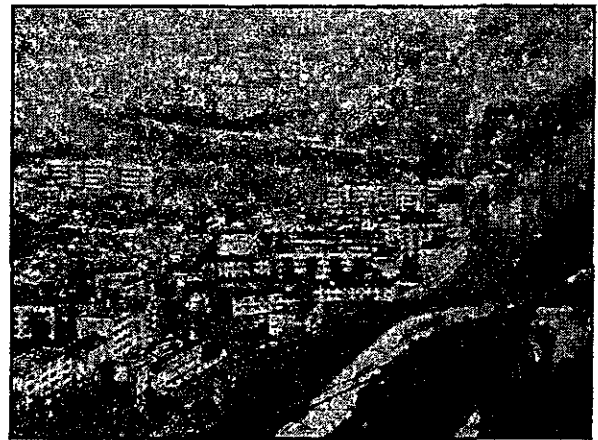
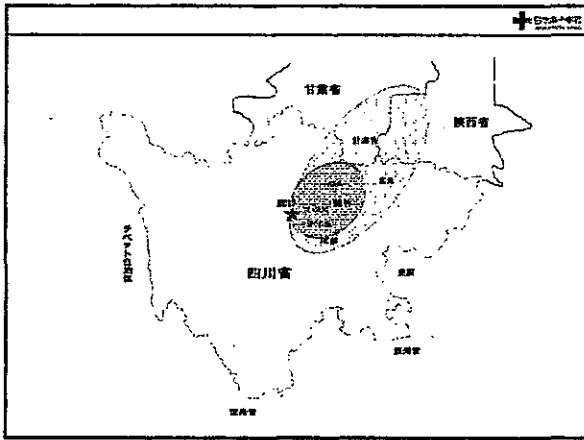


生計再建



中国・四川省大地震

発生： 2008年5月12日 14時28分 (現地時間)
 規模： マグニチュード8
 震源： 成都から北西82km
 被害： 被災者：1,500万人以上
 <死亡> 8万9,227人
 <行方不明> 1万7,823万人
 <負傷> 37万4,843人
 <倒壊家屋> 459万戸
 (2008年3月15日現在)



・軍の動員: 11万人以上
 ・被災していない省や市からの支援

3) 国内外からの救援物資の配布 (約262億円相当)
 ボランティア数: 18万人

ボランティアの調整

- ・阪神淡路の地震以降
- ・ネットで繋がったゆるい組織
- ・数千万・数万単位で被災地に集合
- ・被災者は警戒(団体のお墨付きが必要)
- ・有効に善意を生かす

中国内外からの支援

- 支援総額 約9,500億円
- このうち、以下が含まれます。
- 中国紅十字会: 約2,534億円
- 國際赤十字: 約180億円
- 日本赤十字社: 約51億円

中国紅十字会の寄付会場に来る寄付者